

校長室の窓から（^o^） 「小学校の修学旅行」によせて

小学5,6年生は二泊三日の修学旅行へ、中学1,2年生は一泊二日の語学研修へと檜枝岐を離れました。保護者の皆様からは「家が静かで少し寂しい」という声も聞かれ、お子様たちの成長を感じつつも、親としての心配や不安が少なからずあったのではないのでしょうか。

「手を離しても目を離さず、目を離しても心離さず」という言葉があります。これは、子どもが側にいない時でも、常にその様子を見守り、たとえ目を離さざるを得ない状況でも、思いやりや愛情という「心」の繋がりを断ち切らないことの大切さを教えてくれます。子どもたちが成長し、自立の道を歩み始める中で、親や教師は子どもから「手」や「目」を離す時期が訪れます。しかし、それは決して無関心になることではありません。むしろ、直接は見えない場所でもその成長を思い、喜び、必要に応じて支えることに他なりません。

檜枝岐の豊かな自然の中で育つ子どもたちが、いつか巣立ち、それぞれの道を歩んでいく時、私たちはこの言葉の意味を思い返すのだと思います。手を離しても温かく見守る「目」、そしてたとえ目が届かなくても常に繋がっている「心」。担任から送られてくる子どもたちの笑顔の写真を見るたびに、そのような温かい関係性をこれからも大切にしていきたいと改めて感じています。

